(12)

氏名(生年月日)　湯村和子（ユムラ ワコ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与の番号　乙第454号
学位授与の日付　昭和56年5月15日
学位授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**Lupus 腎炎に関する臨床病理学的研究**
論文審査委員　（主査）教授　滝沢　敬夫
（副査）教授　梅津　隆子，教授　田崎　瑛生

論文内容の要旨

研究目的

Systemic lupus erythematosus (SLE) は，腎障害を来たし尿毒症で死亡することが多い膠原病の中の代表的疾患である．近年，早期診断が可能となり，治療の改善もあいまつて長期生存例が増加しつつある．SLE 類似病変を自然発生する NZB/NZW F_1 mouse において，多角的研究が行なわれつつあるが，純系でないヒトに発生する SLE の病態解明には，直接ヒトでの研究が不可欠である．そこで著者は，SLE の腎障害について，腎組織所見と尿蛋白，腎機能との関連性，10年にわたる経過観察症例での尿蛋白・腎機能の推移，さらに治療・予後について総合的に検討を行なつた．

研究方法

1969年～1979年の10年間に ARA 診断基準をみたし SLE と診断した患者で，当教室にて経過観察を行なつている44症例で，内腎生検施行26例（34検体）と腎生検未施行の18例を対象とした．2回以上腎生検を行なつたものは5例である．男2例，女42例で，尿蛋白に関し2群に大別した．Ⅰ群は，発病当初より尿蛋白陰性であるもの，または steroid 剤使用にて6カ月以内に尿蛋白消失したものとした．Ⅱ群は，発病当初より尿蛋白陽性で，steroid 剤使用にても持続性蛋白尿を示すものとした．腎生検は2例のみが steroid 剤使用前で，他の24例は steroid 剤開始後2週間より10年にわたる期間中に施行した．腎組織は，光顕は Pirani らの histologic activity をもとにした Donadio らの activity score (A.S.) を模し，組織の活動性を評価した．電顕では，Dillard らの方法を用い，沈着部位を上皮下・基底膜内・内皮下・mesangium とに分け，沈着物の量で scoring した．蛍光は，免疫 globulin・補体成分について沈着様式と強度をみた．

成績

1) 10年間の経過観察中，Ⅰ群25例，Ⅱ群19例で，5年以上経過観察した11例中Ⅰ群73%，Ⅱ群27%であつた．Ⅰ群では10年に及ぶ例でも腎機能低下はなく，Ⅱ群では5年以内に3例（16%）が血液透析または死亡している．症状では，Ⅰ群で皮膚症状（顔面紅斑・Raynaud 症状・日光過敏・脱毛など）が高率におこつた．

2) 腎生検時の尿蛋白の程度と A.S. とは有意の相関がえられた．また，A.S. の低いもので尿蛋白多量のものは，糸球体基底膜肥厚例であつた．腎機能（C creat.）と A.S. とは相関性が稀薄であつた．

3) 光顕の A.S. と電顕沈着部位と量とは，内皮下・mesangium 沈着において有意な相関があつた．上皮下沈着と A.S. との相関性はないが，尿蛋白の比較的多量のものがみられた．

4) 蛍光沈着様式では，mesangium 沈着を示すものは，尿蛋白陰性のことが多く，光顕では minimal に近い変化であるが，電顕では mesangium に沈着をみとめた．糸球体基底膜に granular の沈着をみるものは，尿蛋白持続の傾向がみられた．免疫 globulin IgG 単独に比べ，IgG と IgM 共沈着を認める方が，A.S. は高い傾向が認められた．

5) 経過を追つて腎生検を行なうと，治療にて A.S.

の低下がみられ，硝子化糸球体が目立つた．電顕でも，内皮下沈着は消失し，上皮下沈着物は，基底膜の新生を伴い粗となり，蛇行が著しかつた．同時に，蛍光沈着は減少すなわち消失傾向がみられ，尿蛋白も減少傾向がみられた．一方，A.S. が増悪し，尿蛋白が増加した例では逆の所見がみられた．

論 文 審 査 の 要 旨

本研究は，ループス腎炎について，蛋白尿，腎機能を主とする臨床所見と，生検組織による光顕，電顕像，ならびに蛍光所見とを詳細に対比，検討し，本症の治療，予後に新らしい視点を与えたもので，学術上価値ある論文をみとめる．

主論文公表誌

Lupus 腎炎に関する臨床病理学的研究
日本腎臓学会誌　第23巻　第1号　109～123頁
（1981年1月発行）

副論文公表誌

1) 妊娠と腎障害.
循環器　7 (5)　382～384 (1980)
2) SLE 患者血清中の抗リンパ球抗体の検討.
腎と透析　8 (5)　591～595 (1980)
3) Bee sting nephrosis の1例.
日内会誌　69 (10) 1305～1311 (1980)
4) ネフローゼ症候群の概念.
臨と研　57 (2)　368～372 (1980)
5) 生検による移植腎の病理組織学的検討.
腎と透析　4 (6)　683～685 (1978)
6) 腎臓内科における腎生検の集計.
東女医大誌　48 (1)　70～74 (1978)
7) 硬皮症腎の腎生検による検討.
代謝　15 (3)　71～76 (1978)
8) 生検腎の組織化学的検討（腎炎における lysosome の役割）.
腎と透析　3 (5)　45～50 (1977)